令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立下灘小学校

1 自己評価書

教育目標 地域を愛し、愛される、心身ともに健やかな児童の育成								
本年度重点目標		○確かな学力を育てる教育の推進		○豊かな心を育てる教育の推進		○健やかな体を育てる教育の推進		
重点目標		○安心・安全で充実した教育環境の整備		○特別支援教育の充実		○教職員の資質・能力の向上と組織の活性化		
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B A		B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A		B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A		A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A		B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A	
	(成果と課題) ○月1回設定している家庭生活(チェック)週間中の保護者と連携した取組により、学習習慣の定着に成果が上がった。 ○地域学習や社会科見学を計画的に行うことができ、児童の地域への理解や愛着が深まった。 ○振り返り活動の充実やICT活用等の授業改善への取組が十分にできなかった。 ○読書活動への意欲付けや家庭における読書活動の推進が十分にできなかった。							
	(改善策等) ○振り返り活動については、学年に応じて、段階的・計画的に取り組めるようにしたい。 ○えひめICT学習支援システムについて校内研修を行い、活動の頻度を高めたい。 ○親子読書等、家庭での読書習慣定着のための働きかけを行いたい。							
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A		A	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A		A	
	③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A		A	
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B		C	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	C C			
	(成果と課題) ○生徒指導上の課題等について、チームとして全校体制で取り組むことができた。 ○養護教諭と連携して、歯磨き指導や生活習慣病予防についての授業を計画的に行うことができた。							
	(改善策等) ○自己肯定感や自己有用感を高めるために、学級や学校全体の中で認め、称揚する場を多く持ったり、地域との協働活動の中で、自分たちが役に立っていることを実感させたりする活動を取り入れていきたい。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D C	C
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	D	D
			・教師アンケート	A	A
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題) ○コロナ禍前に行っていた活動の回復に努めることはできたが、それらの必要性を検討して廃止したり、簡略化したりしていく視点が足りなかった。 ○現在の業務量を考えると、個人で勤務時間を適正化していく取組には限界があり、逆にそれがストレスになる場合もある。</p> <p>(改善策等) ○学校レベルでは、職員の共通理解と協力の下、管理職の指示と判断で諸活動を精選していく取組が必要と思われる。 ○学校レベルでの精選が難しい活動については、町単位、市単位で一律に精選等の対応を検討してもらうよう働きかける。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題) ○地域学校協働活動推進員と連携して、学校運営協議会において多くの活動が提案され、計画・実践することができた。 ○学校ホームページ等により、教育活動や児童の様子を十分な頻度で発信することができた。</p> <p>(改善策等) ○校区が広く、多地域に渡ることもあり、さらに地域との連携・協働に努め、学校が地域の核の一つとして貢献できるようにしていきたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満